

エコレザー対談



内海氏

内海 昌滋氏

(アーバン工芸(株)社長)

筒井 達也氏

(株ドラゴン社長)

大原 正志氏

(日本手袋工業組合事務局長)

吉村 圭司氏

(NPO法人日本皮革技術協会 副理事長)

稲次 俊敬氏

(NPO法人日本皮革技術協会 副理事長)

高品質なバッグ製造で活路求める。 市場拡大に向けエコレザーの活用も

革手袋の製造から バッグメーカーに転身

吉村 11月号に引き続き、今月も香川県東かがわ市にある日本手袋工業組合の組合員の方々にお集まりいただきました。今回はバッグメーカーの2社です。
はじめに会社の経歴からお話してください。

内海 そもそも手袋製造業として1953年創業し、その当時は革製が8〜9割を占めていました。40年以上前にセカンドバッグの生産委託を受けたのがきっかけでバッグも手掛けるようになり、その数年後にはファッションバッグ

の専門メーカーに切り替えました。裁断・縫製・組み立てまで一貫して社内で行なっています。従業員は、パートを含め36名います。

筒井 当社もアーバン工芸さんと同じような過程をたどっており、15年ほど前までは手袋とバッグの両方を生産していました。当時の手袋ではライダー用に特化していましたが、国内でいいものを作っても、価格で中国製品には太刀打ちできなくなり、2004年にバッグ専業になりました。
徹底した生産管理を行ない品質の向上に努め、大量生産から小ロット生産にまで対応しています。社員数は46名です。

吉村 現在扱っている革は国産のものでしょうか？

筒井 国産とバングラテシユの革の両方ですね。国産は姫路のものですが、原材料の値上げや最低賃金の上昇で、10年ほど前と比べて、革の値段は1.5倍になっているのではないのでしょうか。しかしながら、製品価格はそこまで上げられません。

吉村 前回の手袋メーカーとの座談会では、新たな動きとしてPB（プライベートブランド）への取り組みが挙げられていましたが、バッグメーカーさんの取り組みはどうですか？



筒井氏



吉村氏

内海 今年、プライベートブランド「タイド(TIDE)」を立ち上げました。PBへの挑戦は3度目です。今回は外部のデザイン会社と組んで、革のパッチワークを取り入れたバッグを企画しています。

これは手袋の製法技術を生かし、外から縫い目が見えない内縫いで作ったもので、OEM製品とは価格ラインを変え、高級ラインで展開しています。

検査対象の天然皮革は “原皮出所”が分かるもの

稲次 前回の座談会ではナチュラルレザーを使った素上げ調の革手袋で、色落ちの問題が上がっていました。バッグではそういう問題はありますか。

内海 色落ちについてはやはり言われます。百貨店さんから、材料として使った革に対して染色堅ろう度に関する試験結果報告書の提出を求められたこともあります。

稲次 色落ちに関しては、日本エコレザー認定の検査項目にも、色落ち(摩擦堅ろう度)が含まれてい

るので、ここで説明させていただきます。

日本エコレザーの認定制度は2009年にスタートし、今年で11年目に入っています。“いま使っている革は、人体に安全なの？”ということが、制度導入の契機でした。

認定要件は3つあり、①天然皮革であること、②排水、廃棄物処理が適正に管理された工場で製造された革であること、③臭気、化学物質および染色摩擦堅ろう度に関する一定の基準に適合していることです。

大原 合成皮革や人工皮革は対象外かと思いますが、天然皮革でも含まれないものがありますか？

稲次 天然皮革でも仕上げ・塗装膜厚が0.15mmを超えるもの、ある



アーバン工芸のバッグ

いは断面構造で革の比率が70%以下なのは革とは認められませんが、コンポジションレザー(ボンデッド)のように革の繊維構造をなしていないものも対象外です。

天然皮革とは原則、家畜動物であり、エモツチックレザーについては、取引証明のあるものに限定されます。最近増えている鹿や猪など害獣については、原皮の出所の証明が取れる革が対象になります。

革の“身体検査”を受け 安心・安全を証明

大原 臭気や色落ちを検査項目に入れるのはなぜですか？

稲次 排水、廃棄物処理に関しては、国内生産であれば、水質基準が厳しいので問題は無いかと思えます。臭気については、不快臭やあまりにも臭いのきついものは、イメージ的にも良くないため、基準値を設けています。

染色摩擦堅ろう度については、例えば、小さな子供が革製品を口にし、染料や顔料が溶け出して口の周りに革の色がついていたら、



稲次氏



大原氏

イメージが非常に悪いですね。そこで一定の基準をクリアしたものでないとダメ、としています。

筒井 革の分析費用や認定取得のための費用はどのくらい掛かりますか？

吉村 この制度を制定するに当たっては、ヨーロッパで行われている環境ラベルについて調べました。その中には、繊維関連の「エコテックス100」がありますが、これは試験分析料が約50万円も掛かり、しかも有効期間が1年と短いものです。

これではなかなか普及しませんので、日本エコレザー基準認定では費用を抑えるため、試験項目も必要最小限のものに厳選して決めています。このため、国内の試験機関に出せば、10万円から12万円の費用で検査が受けられます。また、有効期間も5年としています。

稲次 この認定制度を軌道に乗せるために、経済産業省からの補助制度をうまく利用されれば、業者さんの負担を少なくすることはできます。ただし、弊協会のほうで



アーバン工芸のバッグ

もサポートさせて頂いています。その場合は、認定取得されるまで必ず取り組んでいただくことが条件になります。

また、(社)日本皮革産業連合会では、日本エコレザー基準に認定された革の分析費用を負担した業者に対して、認定奨励金として1件の認定につき分析費用の3分の2まで、8万円を限度に助成しています。

内海 当社はバングラデシユの革を使っていますが、これも日本エコレザーの認定を取ることができませんか？

稲次 海外の革も基準をクリアすれば認定取得は可能です。タンナーさんに協力してもらい、今使っている革の“身体検査”を受けるこ

とをお勧めします。最近の消費者は環境に対する関心は高く、消費者の側で検査し、何か問題になるようなことがあれば大変なことになります。

エコレザーの認定が社会的責任を表わす

筒井 日本エコレザーの認定取得は、タンナーさんがするのでしようか。革を使って製品を作っている我々がするのでしようか。また、認定番号の提示はどのようにするのでしようか。

稲次 タンナーさんに革で認定を取ってもらえば、その革を使っている製品は申請するだけです。費用は一切掛かりません。また、革とは別の、新たな認定番号が取れます。タンナーさんにはその革を使うことを前提にすれば、協力していただけるでしょう。実際、メーカーさんが望むならやろう、といった事例は沢山あります。

また、同じ革であっても、色が違えばレシビも変わるため、色ごとに改めて認定を受け、それぞれの認定番号を付けます。この色違い



ドラゴンのバッグ

吉村

認定革や革製品は日本皮革産業連合会のホームページにも掲載されており、安心・安全に取り組む企業として確認されます。

大手企業では社会的責任が重視されるようになっていますが、これは今

認定革や革製品は日本皮革産業連合会のホームページにも掲載されており、安心・安全に取り組む企業として確認されます。

大手企業では社会的責任が重視されるようになっていますが、これは今

では下請け企業にまで求められるようになっていきます。ここで、排水廃棄物は適正に処理をしていること、提出した薬品リストや試験・分析結果から、有害化学物質は含まれていないことがわかります、というように、日本エコレザーの認定制度は、社会的責任を表すものとして役立ちます。

こうした環境に対する基準は、世界的にはどんどん新しいものに変わり、追加されているものもあります。この点については、日本エコレザーの認定基準は現状のものを残しつつ新たな基準を設ける予定です。

また、日本ではすでに当たり前に取り組んでいることですが、労働問題など国連が提唱する

SDGs(持続可能な開発目標)も明記し、もっと強くアピールできるように、新たな日本エコレザー基準を考えています。

日本エコレザー、6つの条件

- ①天然皮革である
- ②発がん性染料を使用していない
- ③有害化学物質の検査をしている
(ホルムアルデヒド、重金属、PCP、禁止アゾ染料)
- ④臭気が基準値以下
- ⑤適切に管理された工場で作られた革
(排水、廃棄物が適正に管理された工場で製造)
- ⑥染色摩擦堅ろう度が基準値以上

